

# 「社会と繋がり明日を切り拓く資質・能力の育成」を目指した授業 ～「世界の未来と日本の役割」の実践を通して～

境 建人

## はじめに

社会科で育てるべき「社会と繋がり明日を切り拓く資質・能力の育成」を目指した授業とは、「子供たちが社会の仕組みを理解して、私的・公的な面から考え、判断をした上で、社会の中で自己実現に向けて行動できる力」を育成する授業であると考え。以上のことを実現するために、筆者は以下の二点に留意してこれまでの授業を構成してきた。

①主体的・対話的で深い学びの実現

②社会的な見方・考え方を働かせる

①、②について、本実践を通して考えたい。

## ①主体的・対話的で深い学びの実現

社会科の授業では、私的・公的な面から社会的事象を判断した上で、人々の願いや意味を考えていく活動を行ってきた。この活動を通して、より良い社会を形成していく資質や能力を培っていくことを目標としてきた。つまり、社会科の教科の役割としては、単に知識を暗記することではなく、獲得した知識を活用し、仲間と共に社会でより良く生きていくための資質・能力を育むことにある。資質・能力を育むためには、子供が「社会的な見方・考え方」を働かせて学びの本質に迫っていくことが重要であり、それこそが「深い学び」につながると筆者は考える。また、課題を設定し、見通しを持って授業を進め、終末における振り返りを意識した授業を行う。授業で獲得した知識を自分の生活や社会生活と結び付け、仲間との対話を通じて、多角的に捉える主体的で対話的な学びを育成していく。

## ②社会的な見方・考え方を働かせる

学習指導要領では、子供が学びを深めていく中で、どのような視点で物事を捉え、どのように思考したのかという「見方・考え方」を育てることが重要であるとされている。社会科では、課題を追究したり解決したりする活動において、社会事象などの意味や意義、特色や相互関係を考察したり、社会にみられる課題の解決に向けて構想したりする際の視点や方法を働かせる力を育成していく。

## 単元を計画するにあたって

本学級の子供たちは、知識が豊富な分、自分の持っている知識を披露する発表が見られた。そこで、これまでの学習では、課題を設定し、子供が問題を見つけ、当事者の人々の立場に立って考え、自分事とし、解決策を考える学習活動に取り組んできた。

本単元では、SDGsを取り上げ、自分たちができることについて考えさせたい。SDGsの学習は、本学級の子供たちにとって、昨年度、学習に取り組んでいることもあり、感心が強い教材である。

単元中盤では、「6 安全な水とトイレを世界中に」について焦点を当てる。のちに記述する第五時の授業までに、画像や動画、資料などを通して、開発途上国の水不足の現状から現地の子供たちが水を汲みに行くため、学校に行けていないこと、先進国が現地でインフラを整備していることについて理解できるようにする。その結果、子供の思考は、「井戸を作ることが大切で寄付をしよう。」という思考

になるだろう。そこで、第五時の授業では、資料を提示し、**子供に揺さぶりを与える**。井戸をめぐる争いが起こっていることなどを示した資料を提示し、「本当に井戸を作ることはいいことなのだろうか。」という問いを設定する。全体での討論を通し、自分と仲間の意見を比較する場面を設定する。また、「**目標を達成するために自分にながができるか。**」を検討することで社会的事象を自分事とできるようにする。子供たちは授業で獲得した知識を社会生活と結び付け、仲間との対話を通じて多角的に捉えさせたいと考え、単元を計画した。また、調べ活動では、自分が国連職員になりきって予算案を立てる活動を単元の終末に設けた。社会的事象をより自分事として捉え、「社会的な見方・考え方」を働かせて、解決に向かっていく姿を期待したい。

○単元計画

- 1 「世界の各地で起こる紛争」について考える。
- 2 「国連で働く人々」について考える。
- 3 「持続可能な社会を目指して」について考える。
- 4 「国際協力の分野で活やくする人々」について考える。
- 5 「開発途上国の井戸」について考える。
- 6 「開発途上国に必要な支援」について考える。
- 7 調べたことを交流する。

実践報告「世界の未来と日本の役割」

～持続可能な社会をめざして～

①世界の各地で起こる紛争 ～第一時より～

紛争を抱えている地域の資料を提示した。児童は、89 国も紛争を抱えていることやアフリカ・中東に紛争を抱えている国が多いことに着目した。

そして、「どうして紛争が起こるのだろう。」という問いが生まれた。児童は、話し合い、出した意見を大まかに四つの観点に分けて整理した。

①人種

→宗教が違くと価値観も違うので争いが起こる。

②政治

→権力者同士が争う。独裁政治に反発する。

③資源

→水や石油を奪い合う。弥生時代でもこんなことがあったな。

④領土

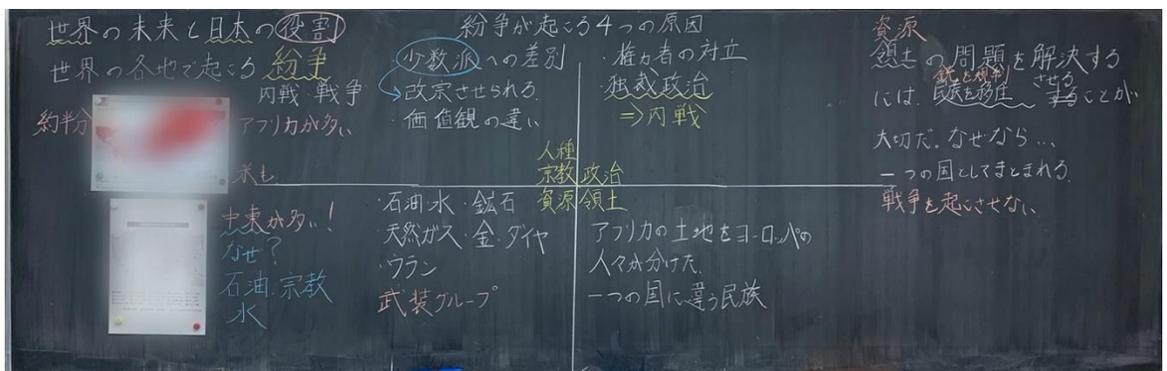
→一つの国に違う民族が住んでいて内戦が起こる。それぞれの要因を踏まえた上で、平和な世の中になるために、解決策はあるのかを考えた。

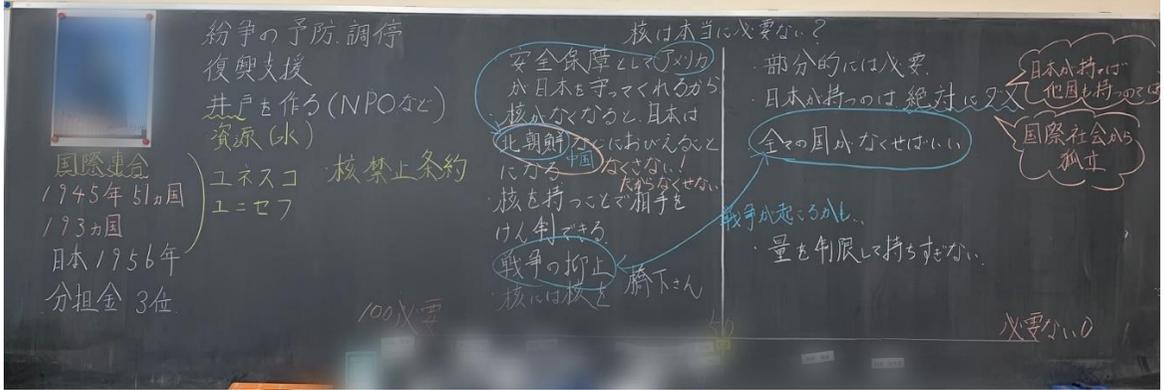
「銃や兵器を規制することが大切だ。」

「同じ民族が同じ国で過ごせるようにするべきだ。」

それぞれが紛争の解決方法について「社会的な見方・考え方」を働かせて思考したが、まだ自分事するには少し話が遠い印象だった。

第一時 板書





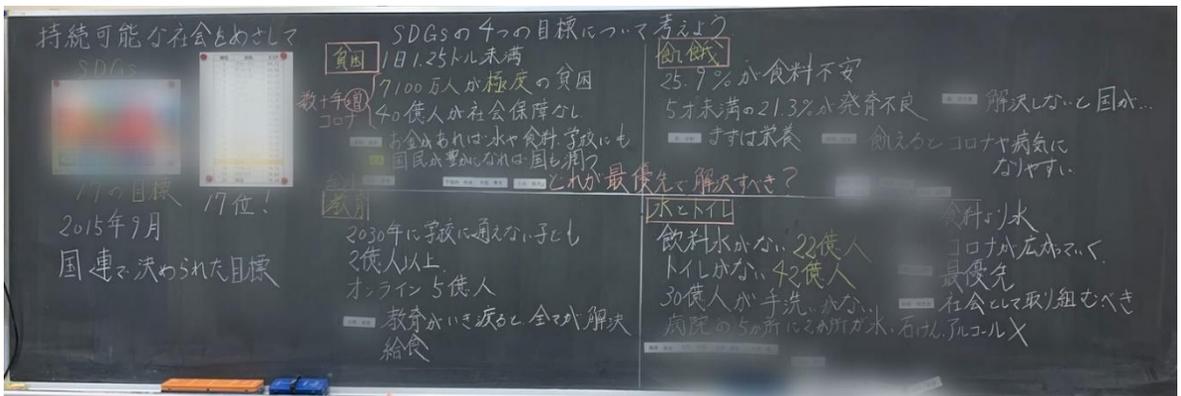
②国際連合で働く人々 ~第二時より~

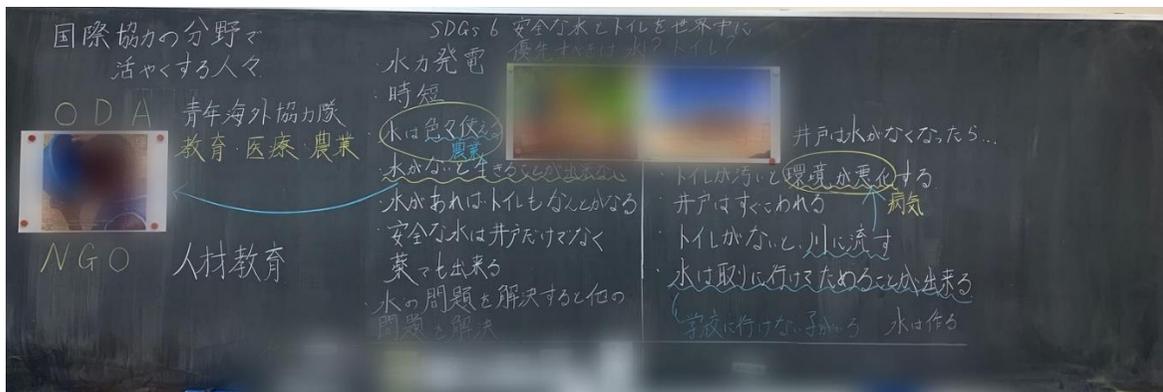
国際連合とは、どのような機関なのだろう。という問いを設けた。1945年に51か国でスタートしたことなどが意見として出てきた。中でも本授業では、核兵器禁止条例を焦点化した。核兵器があることでのメリットとデメリットを示した資料から、「核は本当に必要ないのか」という視点で問いとして捉えた。それぞれが獲得した知識を活用して思考した結果、必要だという意見が多く、「核を持つことが相手を牽制でき、戦争の抑制になる」という意見が出た。必要ないという意見は、「安全保障のために部分的には必要だが、量を減らすべきだ。という意見が出た。核保有に対して授業開始時はマイナスイメージを持つ児童が多かったが、資料を通して、多角的な視点を獲得していった。一方で、資料に流される児童が多いことは、今後の課題であると感じた。

③持続可能な社会をめざして ~第三時より~

SDGs とはなんだろう。という問いを設けた。2015年9月国連で決められ、17つの目標があることなどが意見として出た。また、日本は2020年達成度ランキングでは17位と知った。本授業では、①貧困 ②飢餓 ③教育 ④水とトイレの4つの目標について考えた。

それぞれの目標に対してどれだけの人数がどのような課題を抱えているのかを資料から読み取り、獲得した知識を活用して、「どの目標が最優先で解決すべきか」という問いを話し合った。水とトイレがない人々の数に児童は驚きを隠せないでいた児童が多く、水とトイレを最優先にして解決すべきだという児童が多かった。社会的事象を少しずつ自分事として捉える児童が本時から増えてきた。しかし、今の自分にできることは募金しかないと考える児童が多数であった。





#### ④国際協力の分野で活やくする人々

～第四時より～

国際協力の分野で活躍する人々は、どのような活動をしているのだろうかという問いを設けた。「青年海外協力隊というものが ODA の活動の一つだ。教育や医療、農業などの支援をしている。」「NGO は寄付や募金、ボランティアに支えられていて、人材育成なども行っている。」という意見が出た。

前回の授業で最優先すべきだという意見が多かった水とトイレの問題を ODA は解決に向けて、井戸を作ったり、トイレを作ったりしている。しかし、その数は十分ではない。「どちらを優先して作るべきだろう。」という問いを設けた。

##### 井戸派

- ・水は水力発電にも使えて、豊かになる。
- ・学校に通えない子供が学校に通える。
- ・水がないと生きることはできない。
- ・水があればトイレの問題も解決できる。
- ・葉で水をきれいにすることもできるからそちらにも力を入れるべきだ。
- ・水の問題を解決すると、他の問題も解決することが出来る。

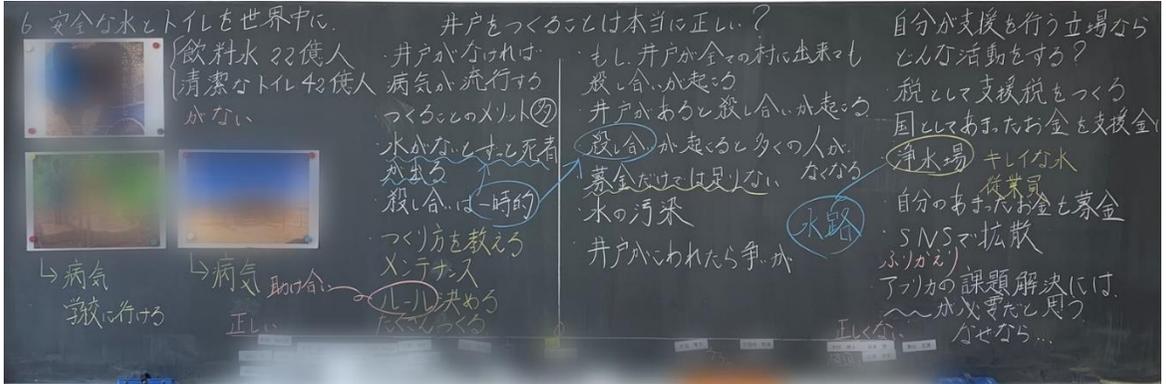
##### トイレ派

- ・井戸は水がなくなったらそれで終わり。
- ・トイレが汚いと、環境が悪化する。環境が悪化すると病気になる。
- ・トイレが無いと川に流すことになり、病気が流行する。
- ・水は取りに行けば貯めることが出来る。→しかし、学校にいけない子も出てくる。

初めは、トイレ派だった児童も話し合いの活動を通じて、井戸派の意見を聞き、意見が変容する姿が見られた。

本時の学習で獲得した知識では、ODA の井戸やトイレを作る活動は素晴らしいという意見が出ていた。次時では井戸を作ることは良くないんじゃないのかという資料を提示すると伝えると、「そんな訳ない。」という声が上がった。このことから児童の思考は、開発途上国の支援のために様々な人が尽力していて、解決に向かっていっていることがわかる。

第五時 板書



⑤開発途上国の井戸

～第五時（研修会本時）より～

前時の振り返り

- ・ 飲料水が飲めない人は 22 億人。
- ・ 清潔なトイレがない人は 48 億人。
- ・ 井戸がないと病気にかかる。
- ・ 井戸があると学校に行ける。
- ・ トイレがないと病気になる。

これまで児童は、開発途上国の課題や現状から様々な機関を中心に課題解決に向けて、活動をしていることを学習してきた。その活動は、どれも解決に向けて有効な手段であると認識している。そこで本時では、二つの資料（記事）を提示して児童の考えに揺らぎを与えた。

- ① 開発途上国のある村に井戸を設置したところ、その村は水の豊かな村になった。しかし、依然として周囲の村は水不足に苦しんでいる。そこで起こったことが、水を巡った紛争であるという記事。
  - ② 開発途上国のある村に井戸を設置したが、設置するだけでメンテナンス方法を伝えておらず、壊れたまま放置されているという現状を書いた記事。
- ①、②の記事を読んだ児童からは、「井戸がなかったら争いは起きなかったし、平和なままだったのでないか」、「壊れたまま放置されているは、何の意味も無いのでは無いか。」という声が上がった。

そこで児童は、「井戸を作ることは本当に正しいことなのか」という視点で問いが生まれた。

正しくない

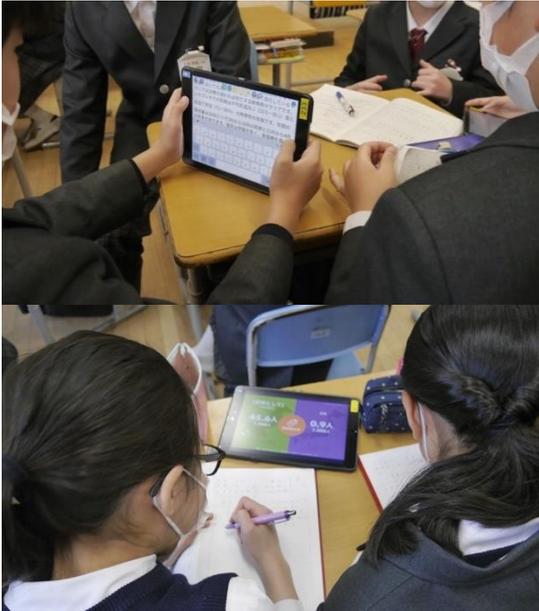
- ・ 井戸があるから殺し合い（紛争）が起こる。
- ・ 紛争が起こると多くの人々が亡くなる。

正しい

- ・ 井戸がないと病気が流行る。
- ・ 水がないと死者が出る。
- ・ 作り方を教えたり、メンテナンスの方法を教えたり、ルールを決めたり、たくさん井戸を作ったりするなど、支援の方法を考え直さないといけない。

という意見が出た。話し合いを通して児童は、新たな支援の方法について話し合う姿が見られた。そこで、「自分が支援をする立場ならどのような活動をするか。」という児童が社会的事象を自分事として考えられる問いを設けた。

- ・ 大人になって、浄水所を作って現地の人に働いてもらえば、仕事も水も与えることができているはずだ。
  - ・ 今の自分にできることは少ないが、開発途上国の現状を SNS で拡散することはできる。
- 社会的事象を自分事とし、思考する姿が見られた。



## ⑥開発途上国に必要な支援について考える

～第六時より～

これまでの学習で児童は、世界にはあらゆる課題があり、それを解決するためにたくさんの人々が尽力していることを学んだ。そこで、自分が国際連合の職員ならば、どの目標を重点的に解決していくかを調べ、プレゼンテーションをすることを学習課題とした。

児童は、同じ目標を選んだ仲間とともに「国際連合の予算の何割を割いてもらうか」、「なぜ、この目標を重点的に解決すべきなのか。」などに着目して、話し合う姿が見られた。また、一つの課題を解決することで他の課題解決にも繋がっていくことに気がつく姿も見られた。



## ⑦調べたことを交流する ～第七時より～

調べたことをタブレット端末アプリ（ロイロノート）を用いて整理し、プレゼンテーションを行った。ここでは、発表して終わるのではなく、他のグループからの質問をあらかじめ予測して用意をする姿が見られた。また、聞いている側も、発表者の矛盾などを追及する姿が見られた。

## おわりに

実践を通して児童は、「社会的な見方・考え方」を働かせて、持続可能な社会のあり方について思考することができていた。また、獲得した知識を活用し、仲間と話し合うことで意見が変容したり、違う角度から社会的事象を思考したりする姿が見られた。児童は、対話を通して、物事を多角的に捉えて、主体的に学んでいた。

プレゼンテーションの活動では、自分たちの生活と社会的な事象を関連づけて、自分たちにできることについても上手にまとめて、発表する姿が見られた。これらの活動を通して、児童は、社会とつながり、明日を切り開く資質・能力を身につけることができたと考えられる。中学校へ進学し、さらに力を伸ばしていくことを期待したい。